

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

高森城の落城は、天正14（1586）年正月23日だそうです。

高森城主・高森伊予守惟直と、三森兵庫守能因は、清栄山麓「高森殿の杉」として近年多くの人達が訪れるようになったこの地で、薩州島津との鬭いから逃れ、再興を願い豊後の国へ向かう途、薩州島津の兵に出会い、闘いから自らの命を絶ちます。その後43年を経て、武田儀兵衛元朝によつて、現在地含藏寺に移し、五輪の供養塔を建立したといいます。

遠い本当に遠い、青森県。

本州の最北端に位置する青森との交流を考えると、今でこそ飛行機そして新幹線とそれは容易になつたようですが、九州人にとっては、今は東南アジアに行く距離に匹敵します。

それは、高森家の末裔だとされ、青森市在住の故高森清吉氏です。

りんごを栽培されているそうですね。本町にもお見えになり、含藏寺に、当時数百万円はしたであろう鐘

楼の寄進がありました。

高森より青森まで、どの様な経路を辿ったのでしょうか。

豊後の国へ向かい、そこから舟にてどちらへ向かわれたのでしょうか。青森は目的の場所だったのでしょうか。何年かかり、たどり着いたのでしょうか。

その方はお亡くなりになりました。住職が青森まで行かれたそうです。

含藏寺は、高森城主の菩提寺でありました。

鎌倉時代の創建と伝えられ、天台宗で代々高森城主の香花院であります。

天正14（1586）年、薩州島津軍との戦いで落城し、当山も兵火のため燃失しました。その後文済大和尚が禪刹に改め、寛文元（1661）年に熊本の禪定寺の納川明海和尚が再興し、起雲山含藏禪寺と称するようになりました。

含藏寺は、1万坪の敷地を有する

そうです。

内部には、書が描かれた屏風が立ち並び、右手に昭和23年に高森中央小学校前方左手より発掘された剣等



▲含藏寺（高森・上在）

高森城落城後の、高森家の人達の動向が気がかりであります。

青森市在住の方から、そして「巨人の星」の著者梶原一騎氏と、数名の人達がいます。

あまりにも交流がなく忘れられたかの、八代城主・松井家との関係。

私の叔父、医者であつた「本田逸茂」は、医学校を卒業後松井家にて開業まで勤めます。それは明治期ですが、高森城の誰かが落ち延び、そして高森の人達との交流が続いていました。

それらは古墳時代になると拡大し、含藏寺から山手にかけ別所の堤に至る位置を住まいとしたと思われます。

境内をめぐり、高森家、武田家、三森家の石塔に一礼をして散策すると、含藏寺六地蔵があり、そして層塔に出会います。いつしか声を掛け搭に出会います。いつしか声を掛け目を閉じると、数百年を過ぎた世界に出くわします。

があり、錆びているものの、往時を偲ぶにはあまりあるものです。
弥生時代を最後とした、幅・津留遺跡の先人達。